

# 第4回 美旗市民大学紙上講座 ～郡境 東田原～

本年度はコロナウイルス感染拡大防止のため美旗市民大学講座を「美旗市民センターだより」の紙面にて、  
テーマを「美旗まち歩き」として展開しています。今月号は**第4回「郡境（ぐんざかい）東田原」**です。



① 殿藪城跡とのやぶじょうあと 丘陵を切り込み、土塁とした主郭と背後に堀切が残る。城主等詳細は不明。



② 長楽寺ちようらくじ 真言宗豊山派。本尊薬師如来 墓地には鎌倉末期の石仏や五輪塔などが祀られているところからも、この地の歴史が古いことを物語っている。『伊水温故』に「天正の乱に兵火」とある。



長楽寺 鐘  
明治 25 年、寺の裏山でタタラを踏んで、村の若衆が鐘を铸造した。その時の穴は昭和 42 年頃まで残っていた。平成 5 年に 100 年祭挙行。

## 「郡境」ぐんざかい 東田原と西田原って どう違うのかな？

天喜 4 年 (1056) 「藤原実遠所領目録」に「上津田原村」と出ているのが現在の東田原で、「下津田原村」が西田原と出ている。伊賀郡と名張郡の郡境が上記の津とは元来、港または渡し場のこと。今、名張街道に唐ノ木橋(とうのきばし)がかかっているが、当時もこのあたりが渡河点だったらしい。この渡河点を津として田原を上下に分けたのだろう。右記地図中の⑥津 また『神鳳抄』に「田原御厨(みくりや)伊賀郡にあり」元暦元年(1184)東大寺文書に「田原御厨」とある。御厨とは伊勢神宮御饌の農作物を献上する神宮領のことである。このような文献から、**東田原が伊賀郡で西田原が名張郡であったことがわかる**。どちらも明治 29 年に名賀郡となり昭和 29 年に名張市となる。

## 「飯行李」めしごうり

柳や竹で編んだお弁当箱  
東田原地区では、特産として農閑期に飯行李の製造を副業とした。明治 16 年の『地誌取調書』に「その質美、産額 1 万個、此金 400 円余」とある。地元の森さん宅では、近所の人を集めて、竹細工をしていたと話してくれました。



\*資料ア『なばりの昔話』より  
東田原の伊勢街道筋に「殿藪」(とのやぶ)っていうてな。岩がありましたんやわ。中略 城は天正伊賀の乱で織田に攻められ、つぶされてしまいました。殿さんは代々家宝にしていた金の茶釜を、城の井戸に投げ込んだという伝説も聞いています。夢みたいな話で今もあるかどうか知りませんがね。この殿藪の入り口の土塁の間に、大きな石の柱が立っていたそうなんですわ。石の柱は、城跡の前を流れている小波田川で「界外橋」(かいげばし)に利用され、掛けられていたけどな、その後、橋は小波田川が改修されてコンクリートになった。架かっていた石は東田原の公民館の広場へ移されたそうなんですわ。後略

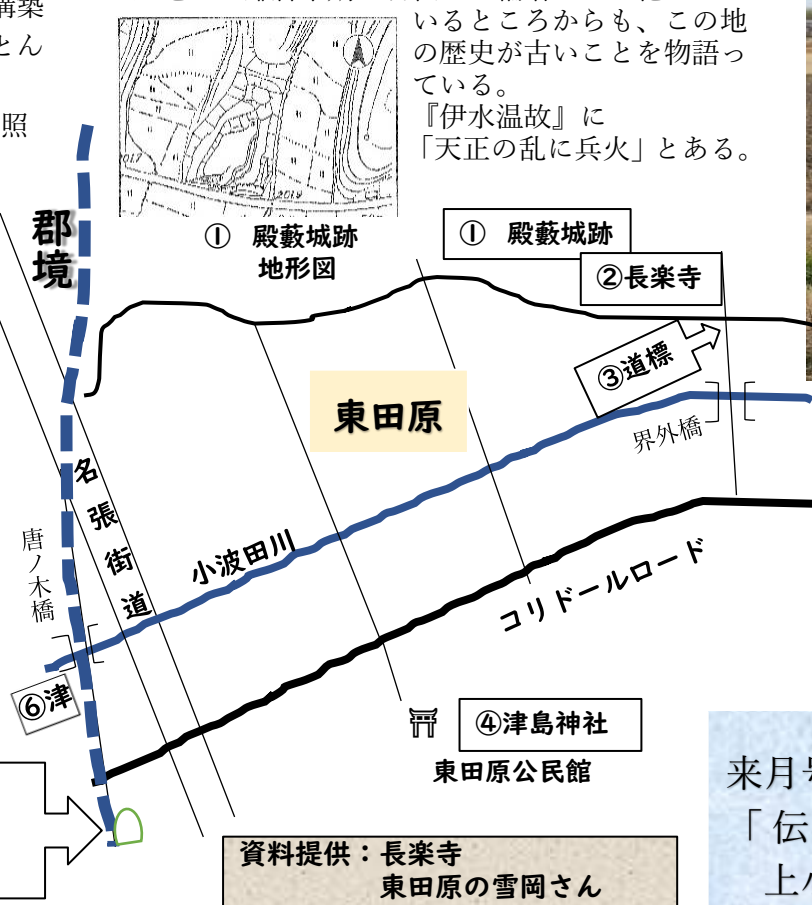
\*名張には多くの土豪がとりでを構築していたが、天正伊賀の乱でほとんどが壊滅的な打撃を受けました。  
←\*資料ア『なばりの昔話』参照



④ 津島神社 東田原村の氏神として鎮座。古くは九頭神社と共に、東西を守る氏神であった。九頭神社は明治 42 年 3 月 15 日に美波多神社に合祀された。



⑤ 石碑 田原開路記 明治 25 年に建立された。



③ 「伊勢道」道標 「右 中村たいし 左 新田」 道標の前の道は大和から薦生の渡しを舟で渡り、西田原—東田原—新田—伊勢方面の東西系交通路

資料提供：長楽寺 東田原の雪岡さん

来月号は、第5回 「伝統文化継承の地上小波田」です。